

小山工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	英語表現 I
科目基礎情報					
科目番号	0046		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義・演習		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	物質工学科		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	Hello New York				
担当教員	岡田 晃				
到達目標					
<p>1. 様々なシチュエーションについて5～10分間程度の簡単な発表ができる。</p> <p>2. グループ内で協力しながらテーマに沿ったプレゼンの準備ができる。</p> <p>3. プレゼンに必要な語彙、英語表現を理解し、使用できる。</p>					
ルーブリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1 プレゼンテーション		様々なシチュエーションについて5～10分間程度の高度な発表ができる。	様々なシチュエーションについて5～10分間程度の簡単な発表ができる。	様々なシチュエーションについて5～10分間程度の簡単な発表ができない。	
評価項目2 グループプレゼン準備		グループ内で自ら先導し、協力しながらテーマに沿ったプレゼンの準備ができる。	グループ内で協力しながらテーマに沿ったプレゼンの準備ができる。	グループプレゼンの作成で協力できない。	
評価項目3 語彙と英語表現		プレゼンに必要な語彙、英語表現を理解し、必要に応じて自由に使用できる。	プレゼンに必要な語彙、英語表現を理解し、使用できる。	プレゼンに必要な語彙や英語表現を理解していない。	
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 ⑥ JABEE (E)					
教育方法等					
概要	簡単な英文法の基礎力を確認しながら、日常会話から国内外の学会発表などのアカデミックな場面及びビジネスコミュニケーションの場面で、英語でプレゼンテーションを行う技能を身につける。				
授業の進め方・方法	上記1～3について：各試験の平均が60%以上を満たしている場合、若しくは各試験の平均と、提出課題、授業への取り組みの内容と回数を設定水準に基づいて行った評価との合算が、本校所定の基準を満たしたと認められる場合、目標到達とする。 上記4について：年間を通じて、個人もしくはグループ発表を数回行い、教員評価もしくはクラス学生全体のアンケートにより評価を行う。				
注意点	とにかく間違いを恐れずに積極的に英文に取り組んでください。英語における表現力アップのための基礎的な科目なので積極的な取り組みを期待しています。わからない点は、授業内外で確認すること。また、上記に示した内容は変更する場合がありますので注意すること。変更する場合は予め授業中に指示します。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション 英語で自己紹介	1年間の大まかなスケジュール確認とシラバスの確認 各自1分間自己紹介	
		2週	Scene 1 It's so nice to meet you	動詞の復習、英語でのあいさつ	
		3週	Scene 1 It's so nice to meet you	動詞の復習、英語でのあいさつ	
		4週	Scene 2 Is he a popular professor?	様々な疑問文と否定文の復習、自己（他人）紹介	
		5週	Scene 2 Is he a popular professor?	様々な疑問文と否定文の復習、自己（他人）紹介	
		6週	Scene 3 He showed me "a" way	現在毛糸過去形の復習、自分の感想を英文で表現	
		7週	Scene 3 He showed me "a" way	現在毛糸過去形の復習、自分の感想を英文で表現	
		8週	Scene 4 For here or to go?	可算名詞と不可算名詞の確認、注文の仕方	
	2ndQ	9週	Scene 4 For here or to go?	可算名詞と不可算名詞の確認、注文の仕方	
		10週	Scene 5 She is so beautiful	代名詞について、お願いをする表現	
		11週	Scene 5 She is so beautiful	代名詞について、お願いをする表現	
		12週	Scene 6 Catching a cab	前置詞と場所を表す表現	
		13週	Scene 6 Catching a cab	前置詞と場所を表す表現	
		14週	Scene 7 How romantic!	形容詞と副詞、人の描写表現	
		15週	Scene 7 How romantic!	形容詞と副詞、人の描写表現	
		16週			
後期	3rdQ	1週	Scene 8 I'm not feeling well	助動詞の復習、体調表現	
		2週	Scene 8 I'm not feeling well	助動詞の復習、体調表現	

4thQ	3週	Scene 9 Tickets for a Yankees game	進行形の復習、誘いの表現
	4週	Scene 9 Tickets for a Yankees game	進行形の復習、誘いの表現
	5週	Scene 10 What's on the shopping list?	接続詞の復習、誘いを断る表現
	6週	Scene 10 What's on the shopping list?	接続詞の復習、誘いを断る表現
	7週	Scene 11 MoMa is fun!	現在完了形の復習、聞き直す表現
	8週	Scene 11 MoMa is fun!	現在完了形の復習、聞き直す表現
	9週	Scene 12 The "Fourth of July" is coming up	未来形表現、予定を尋ねる表現
	10週	Scene 12 The "Fourth of July" is coming up	未来形表現、予定を尋ねる表現
	11週	Scene 13 Who is that guy?	不定詞と動名詞の復習、提案の表現
	12週	Scene 13 Who is that guy?	不定詞と動名詞の復習、提案の表現
	13週	Scene 14 You're my best friend	比較級と最上級、提案の表現
	14週	Scene 14 You're my best friend	比較級と最上級、提案の表現
	15週	Scene 15 We're going to be later!	受動態の復習、確かめの表現
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	3	
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	3	
				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	3	
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	3	
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	
				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	3	
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	3	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	
			英語運用能力向上のための学習	実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	3	
				自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。	3	
		英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などができる。		3		
		英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。		3		
		母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。		3		
		関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。		3		
		関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。	3			
		関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。	2			
		英文資料を、自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながるよう、英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。	2			
		実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	3			

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	10	0	0	0	20	100
基礎的能力	70	10	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0